

湿地性カラー熊本県育成品種「熊本FC01」、「熊本FC02」における収穫時開花程度の影響

「熊本FC01」は、低温期は切り前表示3～4、高温期は切り前表示2～4、「熊本FC02」は、切り前表示2～6での活用が可能である。

農業研究センター農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 工藤陽史)

研究のねらい

湿地性カラーの熊本県育成品種の円滑な普及と販売戦略に資することを目的に、収穫時の開花程度が収穫後切り花に及ぼす影響と品種特性を明らかにする。

研究の成果**「熊本FC01」**

1. 低温期 (3月6日) 収穫では、開花程度の固い (図1: 切り前表示2以下) 仏炎苞は開かず、観賞価値をなくす (図3)。
2. 高温期 (4月22日) 収穫では、開花程度が固い状態でも収穫後に仏炎苞は開く (図4)。
3. 仏炎苞が開いた状態の開花程度 (図1: 切り前表示5以上) での収穫後の日持ちは、「ウェディングマーチ」と同程度である (図5)。

「熊本FC02」

1. 低温期 (3月6日) 収穫でも、開花程度の固い (図2: 切り前表示2以下) 仏炎苞は開く (図3)。
2. 仏炎苞が開いた状態での開花程度 (図2: 切り前表示5以上) での収穫後の日持ちは、「ウェディングマーチ」より良く (図5)、開花しても仏炎苞基部の締りも良い (図2)。

普及上の留意点

1. 試験は、収穫後に花梗長70cmで調整した切り花を水道水4L入れた花桶特大1号に生けて室温下に静置し、生け水は毎日交換した。
2. 切り花は、熊本県農業研究センター内の水田圃場で栽培したものを供試した。
3. 切り前表示 (開花程度)
 - 切り前1～6: 図1および図2参照
 - 切り前7: 花粉の発生
 - 切り前8: 仏炎苞の萎凋が見られる
 - 切り前9: 仏炎苞の褐変が見られる (観賞価値なし)



切り前 1 2 3 4 5
図1 「熊本FC01」の切り前（開花程度）表示



切り前 1 2 3 4 5 6
図2 「熊本FC02」の切り前（開花程度）表示

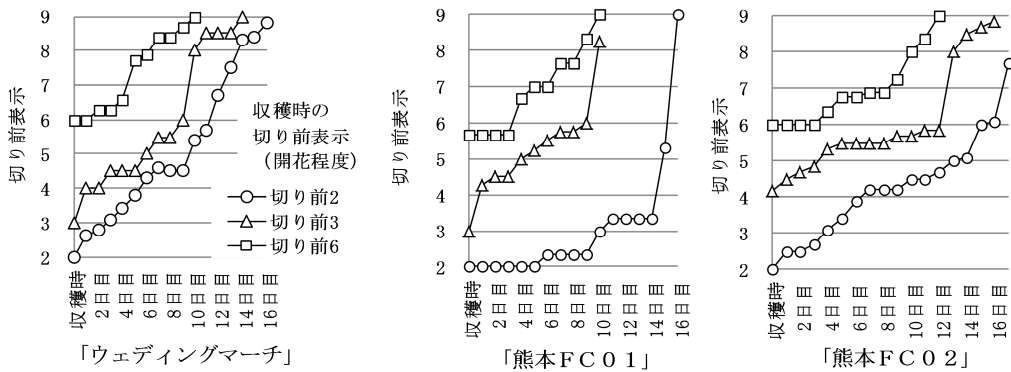


図3 低温期収穫における収穫時の開花程度が収穫後の開花と日持ちに及ぼす影響(収穫日:H24年3月6日)

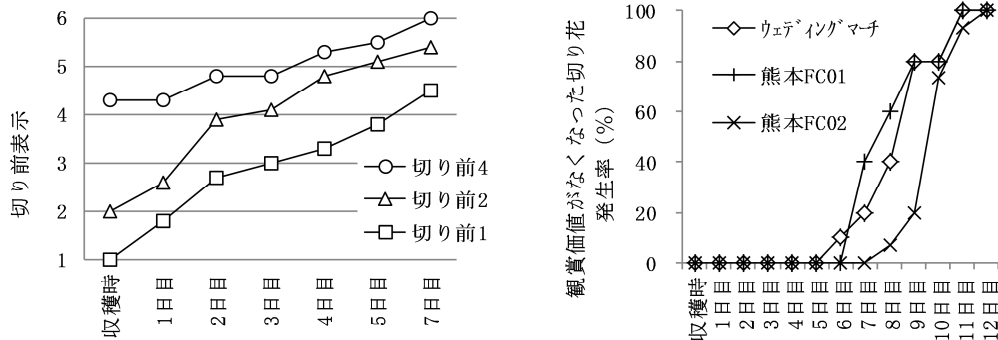


図4 高温期における「熊本FC01」の収穫時の開花程度が収穫後の開花に及ぼす影響(収穫日:H25年4月22日)

図5 収穫時に仏炎苞が開いた状態の切り花の収穫後日持ち(収穫日:H24年4月2日)